

第8期第3回豊中市文化芸術振興審議会

日 時 令和3年（2021年）11月22日（月）午前10時～11時30分
会 場 豊中市役所第二庁舎 4階南会議室
委 員 委員：橋爪（会長）、大梶、高木、上田、永田、山下、原、鶴身
欠席：藤野、濱田（敬称略）
事務局 長坂、玉富、林、西岡、原田
傍聴者 0名

[開会]

事務局○第8期第3回豊中市文化芸術振興審議会を開催する。

今回は橋爪会長と2名の委員に来庁いただき、5名の委員についてはオンラインでの参加とする。本日は第8期の審議会の第3回目であり、前回は8月以来に開催。今年度は最後の開催となる。

（前回の振り返りと議事録の確定）

事務局○（参考資料1に基づき、第2回の振り返りと議事録の確定について説明）

○審議会の意見を受け、「令和2年度文化芸術推進プラン改訂版に基づく施策実施状況（案）」及び「令和3年度以降における文化芸術推進基本計画進捗状況指標」を作成し、委員に送付した。特に修正等の意見はなかったため、今回は確定したものとして報告する。

1. 令和2年度文化芸術推進プラン改訂版に基づく施策実施状況（案）について

事務局○説明の前に、豊中市が行っている事業について、書面でのみの紹介となっており、委員の皆さんがイメージできていない部分が多かったと考える。改めて写真及び動画にて紹介を行う。

（資料1に基づき説明）

○各ページの【文化芸術振興審議会の意見】について、記載を追加している。特に当年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きいため、感染予防に関連した記載が多くなっている。

委 員○小学校のアウトリーチと音大のサウンドスクールはほとんど同じことをやっているように思える。

事務局○たしかに内容としては似ている部分もあるが、実施機会を増やす意味で意義があると考えている。今後、教育委員会との連携も検討する。

委 員○堺市のアーティストバンクでは、研修プログラムとして、音楽とアートをコラボレーションしたワークショップなど、実験的な取組みもしている。ARTSワゴンについて、研修プログラム等があるか。

事務局○1年めはほぼ研修で、（一財）地域創造から講師を呼びアウトリーチについての理解を深めてから、2年めになって本格的に小学校へのアウトリーチを実施してい

く流れになっている。

委員○今後はARTSワゴンのなかで様々なジャンルのアーティストが集まれば、サウンドスクールとはまた異なる独自の事業展開が期待できる。

委員○サウンドスクールと小学校アウトリーチで実施主体が違うということで、縦割りの考え方が見られる。部署の隔たりなく一体となって進めていただきたいところだが、その辺りはどう考えているか。また、ARTSワゴンについて、音楽だけでなく美術分野等も含め横断的な展開を期待したいと考えているが、その点についてはどうか。

事務局○現時点では連携が図れていないため、今後の展開は工夫したい。ARTSワゴンについては、市からも指定管理者に美術分野での展開をお願いしているが、まだ事業をスタートさせたばかりで、今後、アーティストの活動の場も提供していく必要がある。まずは得意とする音楽分野で事例をつくり、そこから美術分野の展開も考えると聞いている。

委員○たくさんのイベントを実施されているが、このうちどれくらいが魅力文化創造課で実施しているか。裾野を広げるためには数も必要であるが、2～3年続けることで参加者の文化に対する関心が深まっていく。単年度ごとの事業としてではなく、長期的な視点をもって内容を考えていただきたい。また、やりっぱなしではなく、イベントの後に参加者などから批評を受けてもう一度考え直す機会も必要と考える。

事務局○事業数については、施策実施事業の34ページ以降に事業内容と担当部署を掲載しているので、確認をお願いします。

委員○事業をやりっぱなしではなく、中長期で何を達成していくのかをしっかりと考えていきたい。文化芸術に触れる機会を増やすことは達成できており、バリエーションも増えている。その先のことを設計し、工夫して考えていくことで、一つ一つの事業がより意味を持つてくるのではないかと考える。

会長○この案件は令和2年度の事業の振り返りなので今後の視点まで組み込むことは難しいと考えるが、いただいた意見を反映できる部分は改めて記載をする。

2. 令和3年度以降における文化芸術推進基本計画進捗状況指標の策定について

事務局○（資料2に基づき説明）

○「5（1）文化芸術に触れる機会の充実」について、前回の審議会の意見を受け、「小学校アウトリーチ事業参加校数」を指標に加えるとともに、参考値として、自主事業のうち「1年のうち何回文化芸術センターに訪れているか」を追記した。

○重点プロジェクト「1. 南部地域活性化の取組み」について、前回の審議会の意見を受け、「後援名義承認事業のうち南部地域での実施事業数」を削除した。

委員○初めて来た人の人数により、市民ホールが幅広く開かれていくことがわかるので、把握をお願いしたい。

事務局○自主事業のうち「1年のうち何回文化芸術センターに訪れているか」を参考値として記録する。

委員○今回、市がさまざまな事業を行っているのと改めて認識した。実施された活動が深

まってスピニアウトしていく、育っていく動きを捉えられると理想だと考える。また、連携事業について、企業や大学との連携も考えていけると、各指標の数値は高めていけると感じる。

委員○企業連携はお金だけでなく、ボランティアなど、人材の提供も考えられる。企業で働いている人が関心を持つ機会を提供するよう、もう一度可能性を見直していただきたい。例えばこども園アーティスト派遣の材料の部分を企業に提供してもらうなどができれば、うまく連携に繋がっていくのではないかと。

事務局○これまでは寄附件数という、金銭面での連携を記載していたが、今後は指標1(1)指標1「事業ごとの連携分野数」等において、企業との連携については審議会に報告していく。実際にART ROOMS TOYONAKAにおいて廃材を提供いただいた実績もあるので、今後も引き続き企業との連携を進めていきたい。

会長○他に意見等はないか。

(意見なし)

会長○それでは、この内容で確定とする。

3. その他

事務局○今回の審議会でもいただいた意見を受け、改めて確定した「令和2年度 豊中市文化芸術推進プラン改訂版に基づく施策実施状況」について、11月中の公開を予定している。

○次回の開催は来年度を予定している。

部長○豊中というまちは、学びの機会、交流の機会、体験の機会がきちんと提供され、それにより、市民がそれぞれ自分らしいライフスタイルを送れるようなまちであることを目標としている。そのうえで、文化芸術は人と人をつなぐ接点になるものだと考えている。

1人1人が文化芸術に関わることで充実した暮らしを送るために、まずは文化芸術に触れていただく機会を作ること、次にその考えに賛同してくれる人をふやしていくこと、最後に一緒に文化芸術に関わってくれる仲間を増やしていくこと、この3つが必要と考える。

昨今は新型コロナウイルスの感染拡大により、特に子どもたちの文化芸術活動の機会が激減してしまった。令和4年度は新型コロナウイルス復興元年として、学び・交流・体験の場を提供したい。サウンドスクールの話題があったが、豊中市内の小学校の校数、児童数を鑑みると、1主体でアウトリーチを十分にいきわたらせるのは難しいと考える。もちろん連携は必要であるが、アウトリーチをいきわたらせるための物量を確保することも重要である。

そういった意味でも、やりっぱなしではなく、豊中市で活動する方々が充実した暮らしを送ることが出来るよう、取組みを進めていきたいと考えているので、今後もご意見をいただきたい。

[閉会]

(以上)